

たのはた

4

復興へのご支援に心から感謝します

前を見つめ 新たな道へ

3月15日に行われた、たのはた
児童館卒園式。18人の卒園時一人
一人が中里民子館長から卒園証書
を受け取った。(関連記事22ページ)

主な内容

- 新小学1年生 将来の夢 2頁
- 特集「道」 4頁
- 3.11 あの日から3年 12頁
- 平成26年度施政方針 14頁

翼

もうすぐ いちねんせい♪ はばたけ 28の

田野畑小学校への入学を心待ちにしている新1年生。そんなみんなに、将来の夢を書いてもらいました。

「おおきくなったら
なにになりたい?」



菊地 聖菜ちゃん (沼袋)

かいじゅうのせしめ



川畑 鳳弥くん (羅賓)

だりくさわ



佐々木 結菜ちゃん (朝)

ケーキ屋さん



町平 秋桜ちゃん (菅)

マッサージ



佐藤 啓一郎くん (田野畑)

たごいくさん



佐々木 歩侑ちゃん (猿山)

ふじんけいかん



山根 理乃ちゃん (羅賓)

おけしやうせけん



佐藤 蒼士くん (尾肝)

E'ishiten



大澤 天華ちゃん (和野)

ふじんけいかん



樋谷 一心くん (菅)

でんきやさん



佐藤 萌生ちゃん (田野畑)

おちえんのせしめ



早野 杏ちゃん (西和野)

とちさん



坂本 瑠華ちゃん (西和野)

がっこうのせしめ



松頭 結乃ちゃん (北山)

ケーキ屋さん



畠山 大志くん (七瀬)

しやうぼうし



佐々木 美月ちゃん (菅)

アイドル



横田 興樹くん (菓色)

はなむけのせしめ



小松山 優心ちゃん (田野畑)

ケーキ屋さん



大澤 真帆ちゃん (菅)

はなむけ



佐藤 優翔くん (机)

りょうし



二河 心奈ちゃん (村外)

アルノワレティ



林脇 覇琉孔くん (菅)

サッカーせんし



三上 靨音ちゃん (和野)

ケーキ屋さん



熊谷 新太くん (浜宮泉)

クレーンのうんてんし



東崎 七美ちゃん (浜宮泉)

かんごしさん



川畑 夏妃ちゃん (羅賓)

パン屋さん



中村 慎之助くん (朝)

さかなつりめいしん



佐々木 優花里ちゃん (和野)

まつりじやさん



**尾肝要道路が開通
喜びに包まれる会場**

東日本大震災からの復興道路に位置付けられている三陸沿岸道路の一部を構成する「尾肝要道路」が3月2日、全線開通しました。開通式には、石原弘村長や国土交通省東北地方整備局の徳山日出男局長をはじめ、工事関係者や村の皆さんなど約450人が出席。平成22年11月19日の道路工事着工から3年3カ月でのスピード開通を喜び合いました。（復興道路としての着工は23年11月20日）

尾肝要地区のトンネル入り口で開催された式典。菅窪鹿踊が勇壮な舞で華を添え、田野畑小スクールのバンドがテンポの良い演奏で場を盛り上げました。

千葉茂樹岩手県副知事は「復興道路の着工式を開催したこの場所、尾肝要トンネル工事の再開、被災地の早期復旧を皆様と誓ったあの日は、今でも鮮明に思い出す。開通を迎え、命の道が三陸沿岸地域につながっていく喜びを感じている」と達増拓也岩手県知事のメッセージを代読。石原村長と徳山局長も開通の喜びをかみしめるように話しました（石原村長と徳山局長のあいさつは6ページに掲載）。

**難所「閉伊坂峠」を回避
産業振興にも期待**

田野畑小スクールのバンドが演奏するファンファーレが高らかに鳴り響く中、テープカットとくす玉開披が行われると、会場はこの日一番の喜びの拍手に包まれました。

尾肝要道路は距離4.5キロの自動車専用道路で、途中には2736メートルの尾肝要トンネルを整備。急勾配、急カーブが連続する国道45号の難所「閉伊坂峠」を回避できるようになりました。国道45号の既存区間と比べ、距離が1.2キロ、時間は約5分の短縮。救急搬送の迅速化が図られるほか、産業振興や地域間交流の活性化が期待されます。



産業

アクセスが良くなり、商品の輸送時間短縮、コストの削減につながります。尾肝要道路の開通でさまざまな恩恵があるので、三陸沿岸道路全線が開通したらどれだけの効果があるのか、今から楽しみ。大きな期待をしているので、1日でも早く全線が開通してほしいです。距離や時間が短縮され、雇用にも大きな効果があると思います。村に住んで久慈に通う、その逆もあり、職業選びの幅も広がりますね。



田野畑村産業開発公社
田野畑村 会長
田野畑 啓二 さん

全線開通時の期待大 雇用にも効果

消防防災

尾肝要道路の開通で、急カーブ急勾配が解消され、時間も大幅に短縮。救急車は予想以上に乗り心地が悪いものなので、傷病者の負担はかなり軽減されます。中野バイパスの開通後、宮古方面への搬送は時間も負担も大幅に軽減されたので、尾肝要道路にも期待。さらに工事が進む三陸沿岸道路全線が開通すれば、消防署にとってだけでなく、全ての皆さんにとって素晴らしい道路になるはずです。



宮古消防署田野畑分署
阿部 大紀 救急救命士

時間短縮と傷病者の負担軽減に期待

喜びの声
期待の声

観光客の皆さんは国道45号をメインに移動。尾肝要道路の開通で村のアクセスが良くなり、立ち寄りやすくなると思います。これまでは、アクセスの不便さから田野畑に来ることをあきらめていた人がいるかもしれません。尾肝要道路の開通や三陸鉄道の運行再開は大きなチャンス。そのためには、私たちも頑張らなければなりません。村が観光の通過点ではなく「行ってみたい目的地」となれるよう、楽しい体験活動を進めていきます。



体験村・たのはたネットワーク
楠田 拓郎 さん

アクセス良くなり 大きなチャンス

観光

道路ができていく姿を楽しみに見ながら通勤していました。朝早い出勤、夜遅い帰宅がある職場なので、本当に助かっています。時間の余裕もできたり、何より気持ち的に楽に。小学6年生の娘がタイヤ張りを体験させていただいたこともあり、いつまでも忘れられないうれしい開通になりました。施設利用者の送迎では車酔いも無くなり、みんなで喜んでいきます。工事が進められている他の道路も、1日も早く完成してほしいですね。



社会福祉法人山栄会リニア倶楽部
小澤 美恵子 さん

時間の余裕ができて 気持ちも楽に

通勤

あいさつ

尾肝要道路の開通で、生活圏は広がり、地域経済は新たな時代へ向かいます。昭和40年の横木沢橋、59年の思惟大橋、そして三陸鉄道。それぞれの開通により本村はこれまで、生活や教育が様変わりする時代を経てきました。

尾肝要道路工事で発生した土砂は、本村復興整備の資材として活用させていただき、これにより復興の歩みが確かなものになったところです。

大震災からの復興、地域を新生・永続させるためにも、本村を含めた三陸沿岸地域が、与えていただいた生活資本をしっかりと地域づくりにつないでいくことが大切です。

尾肝要道路に連なる三陸沿岸道路が結ばれば、「新たな命と心をつなげる道」になります。全線の整備が、安全に完了することを祈念しています。



田野畑村 市長
石原 弘 さん

尾肝要道路は、歴史の中で翻弄された道路です。平成18年度の事業化後も公共事業の見直しや予算の厳しい時代が続き、なかなか進めることができませんでした。

大きく変わったのは東日本大震災です。「命の道をせひ造ってほしい」という地域の皆様から上がった声でした。

震災から8カ月後の11月20日、この場所でトンネル着工式を開催しました。それから1年3カ月で2736メートルのトンネルを掘り進み昨年2月10日に貫通式。そして本日。着工してから3年3カ月という、新記録ともいえるスピードで開通式を迎えることができました。

このような事業に、国土交通省の職員と共に携われたことを誇りに思います。そして、地元の皆様のご協力に心から感謝いたします。



国土交通省
東北地方整備局
徳山 日出男 局長

式典前には菅笠鹿踊が勇壮な舞で華を添えた



関係者や地域の皆さん約450人が出席し開通を祝った



祝



「未来の自分へ」。田野畑小児童が手紙をタイムカプセルに封入



田野畑小スクールバンドがテープカットのファンファーレ→



陸の孤島・思案坂・辞職坂

国道45号榎木沢橋が架かる谷をたどる旧道に「思案坂」、思惟大橋が架かる松前沢をたどる旧道に「辞職坂」があります。

明治から大正時代のこと。役人が視察や出張で村を訪れたとき、100メートル以上の深い谷が次々と立ちはだかりました。「行こうか戻ろうか」と思案し、「こんなところに時々来なければならぬなら、いっそ役人を辞めてしまおう」と観念する。

そんなことから「思案坂」「辞職坂」と呼ばれるようになったといわれています。本村が「陸の孤島」と呼ばれていた時代、通行の厳しさを物語るエピソードです。

昭和40年に榎木沢橋、59年に思惟大橋が開通。村の通勤や通学、医療、防災など、あらゆる面で暮らしは大きく変化してきました。深い谷によって寸断されていた人々の交流、ふれあいの機会も新しく生まれました。本村にとって道路は、「人」と「物」を運ぶだけでなく「心」も運ぶ大切なものです。



三陸沿岸道路「尾肝要道路」(延長4.5キロ)が開通 (平成26年)

思案坂大橋(全長285メートル、高さ115メートル)が開通 (平成18年)



三陸沿岸道路「中野バイパス」(延長6.2キロ)が開通 (平成22年)

国道45号の榎木沢橋(全長240メートル、高さ105メートル)が開通 (昭和40年)



国道45号が全線開通 (昭和47年)

「道」の歴史

田野畑村の

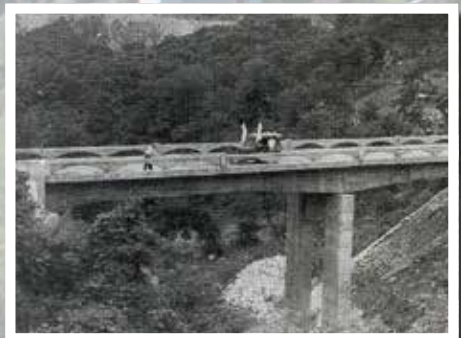


思惟大橋(全長315メートル、高さ120メートル)が開通 (昭和59年)

三陸鉄道が開業 (昭和59年)



北部陸中海岸有料道路「シーサイドライン」が開通 (昭和49年)



村道松前沢線(当時の仙台八戸線2級国道)に松前沢橋が完成(昭和33年)



閉伊坂付近、馬車による木炭搬出(大正末期)

■村道の整備状況の推移(岩手の道路現況より)

	S45	S55	H1	H11	H23
延長	140,050m	162,464m	164,296m	168,617m	177,187m
改良率	5.14%	47.26%	57.32%	63.27%	64.48%
舗装率	0.74%	39.98%	63.21%	75.05%	77.80%

道

私たちの生活に欠かすことのできない

田野畑村の道はどのように変化してきたのか

その歴史を写真で振り返ってみます

写真：三陸国道事務所提供
田野畑村制101年記念誌より



4月6日 三陸鉄道が全線復活



運行再開に向け工事が進む線路で試運転する三鉄車両（平成26年3月17日）



島越駅は6月末の完成を目指して建設中

3月2日、尾肝要道路が開通しました。長い歴史の中でつながってきた「道」と同じく、村の産業の活性化、地域間交流の促進など、村にとっても大きな影響を与えてくれる道路になるでしょう。三陸沿岸道路全体も全線開通へ向けて工事が進められています。

そして4月6日。震災で大きな被害を受けてから1122日。不通となっていた三陸鉄道が全線で運行再開します。

震災から3年、開業から30年の今年。北リアス線で唯一の不通区間だった田野畑-小本間の線路に三鉄車両が戻ってきます。この運行再開には、全国各地、そして世界中からの支援が寄せられました。私たちは決して、この寄せられた支援を忘れてはいけません。感謝の心を持ち続けること、三鉄を利用すること。その一つ一つが支援してくださった皆さんへの恩返しになるのではないのでしょうか。

これからも三陸鉄道は皆さんの思いも乗せて走り続け、三陸沿岸道路は希望の未来へと進んでいきます。

道はつながり 未来へ続く

特集終わり

4月6日・三鉄が運行再開

小旗や大漁旗で歓迎を

大震災で大きな被害を受けた三陸鉄道。島越地区で進められていた復旧工事も完了し、4月6日に全線で運行再開します。その日は、運転再開を祝って記念列車が運行されます。村の皆さんも駅や沿線で歓迎・お出迎えをよろしく願います。

◆歓迎方法：駅や沿線で列車に向かい手、小旗や大漁旗などを振る。小旗は役場で準備します

◆催し：午後0時10分ころから

◆問合わせ先：政策推進課（☎34-2111）

◆その他：ホームや線路など列車が通過しますので、十分注意してください。駅周辺は駐車場が少ないため、乗り合わせでの来場をお願いします

◆その他：ホームや線路など列車が通過しますので、十分注意してください。駅周辺は駐車場が少ないため、乗り合わせでの来場をお願いします



平成24年4月1日、田野畑-陸中野田間運転再開の様子

■記念列車時刻

- ①久慈8:05 → 田野畑8:52 → 島越8:56 → 宮古
この列車には、沿線各市町村長などが乗車予定
- ②久慈11:15 → 田野畑12:10 → 島越12:40 → 宮古
この列車には、あまちゃんでおなじみ、大宮駅長・杉本哲太さん、吉田駅長・荒川良々さんが乗車予定
- ③宮古11:32 → 島越12:11 → 田野畑12:15 → 久慈
この列車には、赤十字広報大使で女優の藤原紀香さん、三陸鉄道の復旧に支援をいただいたクウェート国の在日大使、大臣、県知事などが乗車予定

4月からは高校生も対象 小中高生の医療費を助成

村はこれまで、就学前乳幼児の医療費助成に加え、小中学生の医療費を助成してきました。本年度4月からは、小中学生に追加して、高校生の医療費助成も始めます。

助成を受けるためには申請が必要。医療機関で受診した場合、申請方法などを確認して忘れずに申請してください。

◆対象：小・中学生、高校生

◆助成期間：就学时〜18歳に達した年度の3月31日まで

- ◆対象医療機関：保険医療機関、保険薬局
- ◆申請期限：診療月の翌月末日です（4月受診分は5月末日で）。数カ月分まとめての申請はやめてください
- ◆その他：保護者の所得制限はありません
- ◆申請・問い合わせ先：生活環境課（☎34-2114）

◆給付までの流れ

- ①医療機関の窓口で医療費の自己負担分を支払う
 - ②医療機関の領収書を1カ月分まとめる
 - ③翌月末日までに役場担当課に出向く（4月分の領収書は5月末日まで）
 - ④所定の用紙に必要事項を記入して申請
 - ⑤申請した翌々月の末ころまでに保護者の口座に振り込まれる
- ◆申請時の持ち物…1カ月分の領収書、健康保険証、金融機関の口座番号（保護者名義）が分かるもの、印鑑
- ※高校生の場合、初めて申請するときは在学証明書が必要



復興の軌跡

村全体が大きな悲しみや不安に包まれたあの日から3年。日本全国、世界各地からの支援に支えられ、少しずつですがでも確実に、一步一步前に進んできました。村は1日も早い復興へ向け、復旧工事などを進めています。

島越地区

羅賀地区

明戸地区

机浜番屋群



【震災前】



【震災直後】



【震災から1年】



【震災から2年】



【震災から3年】

3月11日 東日本大震災発生から3年
300人が追悼式に参列 犠牲者の安らかな眠りを祈った

3.11
あの日から3年



献花を行う参列者

3月11日、アズビイホールで「田野畑村東日本大震災追悼式」を開催しました。大震災発生からちょうど3年のこの日。村内外から約300人が参列し、犠牲者に哀悼の意を表しました。

国が行う式典の国歌斉唱、黙とう、安倍内閣総理大臣の式辞、天皇陛下のおことばを映像中継した後、村追悼式を行いました。

石原弘村長は「私のまぶたには、がれきに埋め尽くされた耐え難い光景が焼き付いて離れない。震災を心に刻み、しっかりと後世に伝える。災害に強い安全・安心な村をしてよみがえらせ、さらなる未来に突き進むことが私に課せられた責務」と式辞。震災からの復興を必ず成し遂げると誓いました。

遺族代表の追悼のことばなどの後は、参列者が祭壇に献花を行い、津波犠牲者の安らかな眠りを祈りました。

追悼のことば 遺族代表 佐々木 駿也さん(23・島越)

この3年間、震災や消防団活動中に津波でなくなった父のことを忘れたことはありません。遺族それぞれが、今でも親族を突然失った悲しみと共に生きています。

父には迷惑ばかり掛けました。しかし、どんな道に向かっても反対しながらも私の意思を尊重し、応援してくれました。そのことで私が今、歩んでいる道はとても充実しています。

震災後に村に帰ってきてからの3年間で、私には変化があります。消防団に入り、愛する人と結婚して父となり、守るべき家族ができました。父であることの苦勞を少しずつ分かります。父の奮闘しています。家族があるからこそ、今を頑張って生きようと思えます。父もそういう気持ちだったのでしょうか。

きっと私の夫ぶり、父親ぶり、仕事ぶりを空からピールでも飲みながら眺めていると思います。

日本各地で自然災害が頻繁に発生し、今でも多くの皆さんが涙を流しています。そのような現実にも目を向け、手を取り合って乗り越え、後世に伝えていくことが私たちにできることです。村民が一つになつて頑張ります。



施政方針目次

- はじめに 14
- 震災からの早期復興
 - (1) 生活再建と生業の成立 15
 - (2) 防災の地域づくり 15
 - (3) 地域振興 16
- 予算編成の方針 16
- 主要施策の展開
 - (1) 産業の活性化 17
 - (2) 保健・医療・福祉の充実 17
 - (3) 社会資本の整備 18
 - (4) 教育の振興 18
- 教育行政方針 19
- 結び 20

平成26年度施政方針

未来に夢と希望を抱き 住み続けたい村へと全力で 「新生たのはたづくり」

平成26年第3回村議会定例会が3月6日に開会しました。村づくりの方向性や新年度の主要事業など、石原弘村長が行った施政方針演説、熊谷勤巳村教育委員長職務代理者が行った教育行政施政方針演説の内容をお伝えします。

はじめに

平成26年第3回田野畑村議会定例会の開催にあたり、平成26年度当初予算案や村政の重要案件のご審議をいただくため、所信の一端を申し上げます。

私は、昨年8月から村政運営の重責を担ってまいりました。本村における現下の最大の課題は、進行する過疎化に耐え抜きながら、震災からの復旧・復興を成し遂げ、「新生たのはた」づくりを進めていくことだと考えています。私の考える「新生たのはた」づくりに向けた村政運営の基本姿勢は、行政の政策決定に村民の参画を得て、意見・提言を取り入れること、その過程を村民に明らかにし、しっかりと説明責任を果たすこと、そして、行政執行にあたっては政策の公平性、平等性を堅持することです。

「新生たのはた」づくりに向け、震災からの復旧・復興に一定のめどを立てることはもちろんのこと、より多くの村民が村づくりに参画し、行政と手を携えて行政施策を推進し、村民一人ひとりが希望の持てる、幸福度の高い、住み続けたい田野畑村を築いていきたいと考えています。

「協働」による行政運営の推進という考え方は、地方自治における重要な基本姿勢として多くの自治体で取り上げられており、本村

においても早くから村政運営の基本理念に据えてきているところです。

住民と行政の協働とは、住民と行政が一体となって住民総意の把握に努め、住民の参画を得て政策立案し事業化していくことです。

このような考え方のもとに、平成25年度の途中からですが、村民意向・事業執行の方向性などについて行政の説明責任を果たしながら、復旧・復興事業などに取り組んできました。9月に三陸ジオパークの認定、11月には三陸沿岸道路「田野畑道路」の起工式、12月に島越観光交流センター工事安全祈願祭と明戸防潮堤復旧工事安全祈願祭が行われたところです。3月2日に開通した三陸沿岸道路尾肝要道路（尾肝要トンネル）は、三陸地域復興のリーディングプロジェクトでもあります。

これらは、単なる震災復旧・復興にとどまらず、今後の田野畑村の発展に不可欠な社会基盤となるものと確信しています。

その中で、現下の本村の置かれた状況を直視し、重要政策として取り組まなければならない村政課題は、人口減少・過疎化に対する対応だと考えます。そのためにも平成26年度においては、「東日本大震災田野畑村災害復興計画（H23（27）」および「田野畑村総合計画（H23（32）」の着実な推進と併せて、村民が希求する村民による村民のための「新生たのはた」づくりの実現に向けて、その条件整備を図る考えです。

震災からの早期復興

現下の村政運営で最優先に取り組むべき課題は、先の大震災津波被害からの早期復旧・復興と過疎対策です。

1 生活再建と生業の成立

国内は総じて人口減少の時代に突入し、本村をはじめ多くの地方自治体は、少子高齢化と過疎化の課題に直面しています。今こそ、村民の皆様が住み続けたいと思っただけの村づくりに積極的、継続的に取り組んでいかなければなりません。

そのためには、特に被災者の方々の生活再建を最優先に、住宅再建と生業を成立させるための条件整備に取り組む考えです。

住宅再建は、造成工事を進めてきた4団地のうち、松前沢・羅賀東・黎明台団地は既に住宅再建用地の分譲を終え、拓洋台団地は6月を目標に分譲を行う予定です。また、災害復興公営住宅整備は、黎明台が8月、拓洋台が11月の完了を目指し鋭意取り進めます。

生業の再生は、特に震災で大きなダメージを



災害公営住宅は黎明台が8月、拓洋台が11月の完成を目指す（写真は羅賀東団地、3月11日の様子）

被災した漁業の振興を図るべく、漁港周辺などの有効な土地利用を計画する必要があります。今回の震災では、島越と羅賀の両地区だけでも約50ヘクタールの土地が浸水しました。これら浸水地の利活用にあたっては、地権者はもちろん、地域や漁業協同組合、漁業者などの意向を踏まえつつ、国庫補助事業の条件

などとの調整を図るとともに民間活力の協力も得ながら、土地利用策を検討していくと考えています。そして水産振興事業の展開を通じて一日も早く震災前の水準に近づけるよう支援していく考えです。

震災等緊急雇用対策事業は、被災された方々を中心とした緊急的な雇用対策として、前年度並みの14事業、事業費総額1億2300万円余りの事業を実施することとしており、事業の趣旨に合った事業展開をしていく考えです。

2 防災の地域づくり

大震災を踏まえ、村防災計画を見直ししました。村民の生命と財産を守ることを最優先に、これまで島越地区と羅賀地区、明戸地区で自治会や地域住民と行政が一体となって、新たな視点で身近な津波避難路の点検、検証の総括を行ってきました。主要村道4カ所に津波情報表示板を設置したところです。

今後も防災訓練などを通じて津波避難路を実踏するなど、特に児童生徒や高齢者の避難行動を促し「命」を守る訓練に重点を置き、問題点などを検証しながら課題解決を図るよう継続的に取り組みます。被災した羅賀地区防災センターは、8月末の完成を目指して現在工事を進めています。防災まちづくり拠点施設の整備は、本議会に工事契約案を提案しています。

地区から要望の多い街路灯の設置整備は、津波避難路などとの兼ね合いを考慮しながら随時対応します。通信連絡施設である行政防災無線施設の維持管理は、高台への住宅再建用地の確保と住宅再建に対応した屋外拡声子局の新設や戸別受信機の設置に対処します。

万が一の自然災害などに備え、沿岸部のみならず内陸部も、自らの命は自らが守る「自助」、地域住民がともに連携する「共助」、行政の担う「公助」を有機的に組み合わせること、防災・減災の地域づくりを推進し、村民の安心と安全を確保していく考えです。

早期復興

3

地域振興

人口減少と高齢化の進展により、多くの地域で従前の活力維持に苦慮しているのが現状です。他自治体などでも、被災地における人口減少が大きな問題となっていることから、人口流出に歯止めをかける総合的な地域振興策を講じた定住対策が求められています。村の振興発展の基礎は地域振興であり、地域振興の基礎は住民個々の幸福度(感)の高さだと考えます。

定住人口が多様な年齢で構成されていることが理想です。そのためにはその前提となるそれぞれの地域に魅力があること、通勤でき



魅力ある地域づくりなどが不可欠(鳥越大神宮祭)

る範囲に就労の場があること、買い物や教育・保健・医療・福祉が充実していることなど、多様な分野の条件整備が不可欠です。

小規模集落の多い本村がこれらを実現するためには、地域や民間の自助努力あるいは行政の施策展開のみでは限界があります。地域の方々との話し合いを持ちながら、地域が望む「地域づくり」に向けた優先順位を決め、村民と行政の役割分担と協働、すなわち村民個々の努力と責任で担うべきこと、地域が共同して担うべきこと、行政の責任で果たすべきこと、村民と行政が協力して行うことなどを組み合わせることによって、地域振興をけん引し地域住民の幸せを実現していきたいと考えています。

今、過疎化が進む地域の振興策の一つとして、「里山資本主義」という画期的な提案が注目されています。その考え方は、地域内で得られる風力、太陽光、水力、樹木などの資源に新技術を応用することで、再生可能エネルギーに転換して地域内循環し、産業を興し雇用を生み出すというものです。

本村でも、この里山資本主義の取り組みにより地域振興が実現できると考えているところで、その可能性について検討していきます。

主要施策の展開

主要施策の展開は次のとおりです。

1 産業の活性化

本村の振興発展は、農林水産業の振興を基幹としながら、2次・3次産業と有機的に連携することで、地域経済全般に活力が生まれてくるものと考えています。

1次産業は、生産の場であるのみならず、国土の保全や水源涵養、地域文化の継承、自然景観の形成など、多様な役割を担っている産業です。本村の豊かな自然を生かした環境保全型の産業振興を目指します。

農林水産業振興に関わる具体の事業として、いわて地域農業マスタープラン実践支援事業、菌床しいたけ生産支援および安定生産対策事業、原木しいたけ生産振興事業、いわて型牧草再生対策事業、和牛繁殖導入事業、優良乳牛・優良肉牛生産支援事業、森林整備加速化・林業再生交付金事業、サケ資源回復事業、水産業共同利用施設復旧支援事業など、多様な事業を展開します。

併せて、国・県などの関係機関、民間企業の支援を得ながら、本村の農林水産物の「食」のブランド力の構築に向け、1次産業の担い手および食品加工、そして流通・販売などを通じた6次産業化にチャレンジしていきたいと考えています。

6次産業化は、意欲ある農林水産業者の掘り起こしと事業計画の策定支援、民間企業との連携を模索するなど、その実現に積極的に取り組んでいく考えです。

商工業の振興については、村の中小企業振興資金融資と利子補給および信用保証料補助、中小企業被災資産復旧支援事業などによって、事業者の経営を支援していきます。

観光振興については、NPO体験村・たのはたネットワークや(株)陸中たのはたなどと連携しながら、これまで推進してきた体験型プログラムに加え、新たにジオツーリズムの観点や地域文化・食文化など、村の持っている資源を有効に観光とリンクさせた滞在・交流型観光を充実させ、田野畑村の魅力のアピールし観光客を呼び込み、地域活力の増進に寄与していく考えです。

産業振興については、各部門の振興策を連携することが重要です。三陸沿岸道路の完成を見据えて、村民参加型の政策展開によって、道の駅と産直施設を統合した複合的な交流施設としての産業振興の拠点づくりに向けた準備を進めていく考えです。

予算編成の方針

本年1月に国から示された平成26年度の地方財政計画では、一般財源総額は60兆3577億円、前年度比1.0パーセントの増となっており、引き続き前年度を下回らないよう確保されたところです。しかし、高齢化の進展などによる社会保障関係費の増大や公債費が高い水準で推移することなど、地方財政を取り巻く環境は、いまだ予断を許さない状況です。

そうした中、地方交付税の総額は、16兆8855億円、前年比1.0パーセントの減となっており、別枠として計上される震災復興特別交付税も5723億円、前年度比7.7パーセントの減となっています。

こうした厳しい状況下にあつて、本村の平成26年度予算編成にあたっては、事業効果、効率性、政策の優先度などを総合的に勘案しながら、被災者の生活再建施策を最優先とし、「東日本大震災田野畑村災害復興計画」および「田野畑村総合計画」を実現するための事業を厳選しました。



豊かな自然を生かした産業振興を目指す(ワカメボイル作業の様子)

2 保健・医療・福祉の充実

各種健診や保健事業の推進と診療所運営、高齢者養護施設などとの連携を図りながら、村民が心身ともに健康で過ごせるよう、その充実を期していきます。

特に高齢者福祉については、介護を必要とする方々に今後とも安心して地域内の施設などでサービスを受けられる体制の充実を図るとともに、元気な方々にはこれまで培ってきた技能や経験を発揮できる短期就労や社会参加活動の機会づくりを支援していきます。具体の事業として、医科・歯科の診療所運

施政方針

主要施策の展開

主要施策

3

社会資本の整備

営をはじめ、乳幼児健康診査事業、各種予防接種事業、インフルエンザ予防対策事業、健康診査等事業、歯科保健事業を行うほか、仮設住宅集会所相談支援員設置事業、まごころ宅配便事業、シルバーサポーター設置訪問事業、自殺予防対策事業、人間ドック・専門ドック助成事業、敬老会の開催などを通じて保健・医療・福祉の充実を図ります。

児童福祉などの分野については、乳幼児から高校生までの医療費を給付することとしたほか、継続して妊産婦やひとり親家庭、寡婦に対する医療費給付、さらには地域子ども・子育て支援事業計画を策定し、今後の児童福祉対策の充実を期していく考えです。

保育所の待機児童対策は、保育士の増員が見込めることから、26年4月入所分は、待機児童は発生しない見込みです。年度途中に想定を超えた申し込みがあった場合は、家庭的保育実施者に対する助成に取り組むこととしています。

現在、地域子ども・子育て支援事業計画策定のために実施したニーズ調査を集計・分析中です。中期的な保育需要を把握し、必要に応じて保育所の増築や保育士の増員を検討したいと考えています。

放課後児童対策としての学童保育は、新年度は「放課後児童クラブ」として、月曜日から土曜日と、小学校の長期休業中にアズビィホール会議室で開設します。



児童福祉の充実を図る(小学校入学を待ちわびる若桐保育園児)

大震災で被災した水産関連施設をはじめ、村単独では整備できない大規模な産業基盤や社会資本の整備は、将来にわたって本村の振興発展に不可欠です。

道路関係については、道路の維持管理と長寿命化に向けた点検業務のほか、三陸沿岸道路の整備促進のための用地取得業務や田野畑インターチェンジアクセス道路の整備、社会資本整備総合交付金事業による菅窪和野線、

沼袋田代線、沼袋三沢線、そして復興交付金による北山崎線、明戸北山線、田野畑平井賀線、長嶺線などの村道路線の改良および改良舗装工事を順次進めます。

復興交付金の鳥越漁港地区および平井賀漁港地区で実施する漁業集落防災機能強化事業によって、地区内の集落道整備などを行うほか、平井賀漁港(羅賀地区)環境整備事業によって、親水施設などの環境整備を行います。

上下水道は、引き続き羅賀および田野畑浄水場と切牛簡易水道施設の改修を行うほか、島越および羅賀地区の集落排水施設の復旧を行います。さらには、水産荷捌き施設や島越観光交流センター、机浜番屋群の建設整備を行うほか、農用地整備事業などを通じて産業振興基盤の整備を進める考えです。

主要施策

4

教育の振興

教育の振興については別途、熊谷教育委員長職務代理者が「教育行政施政方針演述」を行います(次ページに掲載)。教育委員会部局との綿密な連携のもとに、本村児童生徒の健全育成と学力向上、そして社会教育、社会体育、文化の振興に資する生涯教育の充実発展を期すように努めていく考えです。

教育行政方針

熊谷勤巳教育委員長職務代理者

教育基本法や学校教育法などの教育関連法規や、学習指導要領、県教育委員会教育行政方針、村政運営方針などに沿いながら、本村の教育課題克服のために、次に掲げる基本方針や重点施策により、教育行政に取り組みます。

(1)東日本大震災で被災を受けた地域や家庭、児童生徒の支援も含めた教育環境の再建、復興に重点を置いた各種施策を推進します

(2)地域や家庭での教育の在り方について、保護者や地域、小中学校や就学前教育機関、村当局、関係諸機関と連携・協議し、改善を図ります

(3)小中連携(一貫)教育に関する研究指定3年目にあたり、9年間を見通した人間としての望ましい発達、学びの連続性を重視した研究や実践を深めます

(4)小中学校とPTA、教育委員会、村民、村当局が一体となった復興教育を推進します

(5)社会教育や社会体育で、村民のニーズに応じた事業を推進し、村民の健康と生きがいづくりに努めます

(6)「第3回田野畑村教育の日のつどい」を開催し、趣旨の拡大や事業の創意工夫によって村民の教育への関心を一層高めめます

(7)本村教育の振興に関する総合的な計画となる田野畑村教育振興基本計画を策定します

以上の基本方針を踏まえた、26年度の教育施策の概要は次のとおりです。

(1)学校教育の充実

①確かな学力を育む教育の推進のため、村の学力検査を小中学校全学年で実施・分析し、指導改善を図ります。中学生学習サポート事業を継続し、中学生に学習の場を提供し学力向上を図ります

②豊かな心を育む教育推進のため、関係団体と連携し、読書活動を推進します

③健やかな体を育む教育の推進のため、クラブ活動やスポーツ少年団活動の場を提供します

④人間としての成長や学びの連続性を重視した学習指導や健全育成について、保護者・家庭、地域と連携した小中連携(一貫)教育に積極的に取り組みます

⑤不登校やいじめをなくするため、児童生徒一人ひとりを大切にされた教育を行います。児童生徒理解やより良い学級経営のために、小中学校全学年でQ-U検査を年3回実施します。児童生徒の心のケアを継続します

⑥学校施設は、児童生徒が安全で快適に学べる学校施設の整備を推進します

⑦教育環境の充実、教育の機会均等のため、就学支援や奨学金の貸与を継続します

⑧特別支援教育の充実、児童生徒の自立や社会参加に必要な力を育むため特別支援教育支援員の配置を継続します

(2)社会教育の推進

①各種社会教育的事業において村民のニーズに応じ、PDCAに基づいた計画的な取り組みを重視します

②全県共通課題と推進区ごとの課題に基づいた教育振興運動の活発化を図るため、推進区ごとの組織確立と相互の実践交流を深めます。村教育振興運動50周年にあたり、より一層の運動の充実を図ります

③地域や家庭の教育力の充実・向上のため、教育委員会主催の教育懇談会や家庭教育学級を開催し、児童生徒の基本的生活習慣の確立を図ります

④深谷市や藤崎町の児童との体験交流活動の企画は、小学校やスポ少、漁協などとの協議を行い、最善の形で取り組めるよう配慮します

⑤放課後子どもプランを生活環境課と一体となって進めます

(3)社会体育の推進

①田野畑村総合型地域スポーツクラブの事業と提携し、各種スポーツを取り入れた村民の健康と生きがいづくりに積極的に取り組みます。推進体制の充実のため各種団体と連携を図ります

②完成した新マレットゴルフ場で各種大会を開催し、本村の生涯スポーツ「マレットゴルフ」の普及・発展を図り、平成27年の全国大会、28年の岩手国体デモンストレーション競技の成功につなげます

③駅伝競走大会、ソフトバレーボール大会などを継続開催するとともに、壮年層の参加を意図したスポーツ教室・大会を企画し、村民のスポーツ活動を推進します

(4)文化の振興

①村民文化展や青少年劇場、芸能フェスティバルを開催し、村民や児童生徒の芸術文化活動の振興を図ります

②民俗資料館の展示品や展示方法を工夫し、三閉伊一揆関係のイベントも取り入れて、一層の入館者の増加を図ります

③復興工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、引き続き県教育委員会の指導により迅速に取り組みます

④シロバナシヤクナゲやイワタバコ、チョウセンアカシジミについての保護観察は、専門的な講師を依頼し、調査・保存活動を行います

⑤館石野一遺跡の看板設置と周辺環境整備を行い、見学者や研究者の便宜を図ります

⑥民具などの調査・記録・保存作業を一層進め、収蔵・展示場の建設に向けた準備を行います

東日本大震災の影響は、まだ色濃く残っている状況ですが、「村づくりは人づくり」の一層の推進が必要だと、強く認識しています。そのため、子どもたちの「生きる力」をより一層育み、本村の教育行政に取り組みます。

結び

以上が震災からの早期復興および主要施策の概要です。これらに要する平成26年度の予算総額は、一般会計で139億8500万円、特別会計を含めた全会計では171億8000万円余りとなりました。

震災からの早期復興を目指すとともに、健全な財政運営と村民福祉の向上を目指した予算編成を行ったところで、事業実施にあたっては予算の節減を図りながら、最大の行政効果が図られるよう努めていきます。

震災復興関連の事業推進については、本村でも入札不調の事態が散見されるほか、職員体制が不十分であることや建設資機材、技術作業員の不足などの影響が出ています。しかし、本村の将来を見据えた着実な村政発展の礎を築いていくために、県内外から本村に派遣された職員を含めた村職員一丸となり、復興の歩みを緩めることなく全力を傾注します。

震災復興関連事業の推進と併せ、主要事業の展開についても国・県の制度改正などの動向に注視し、有利な補助

制度を活用するなど、東日本大震災からの復興業務をさらに加速させる考えです。

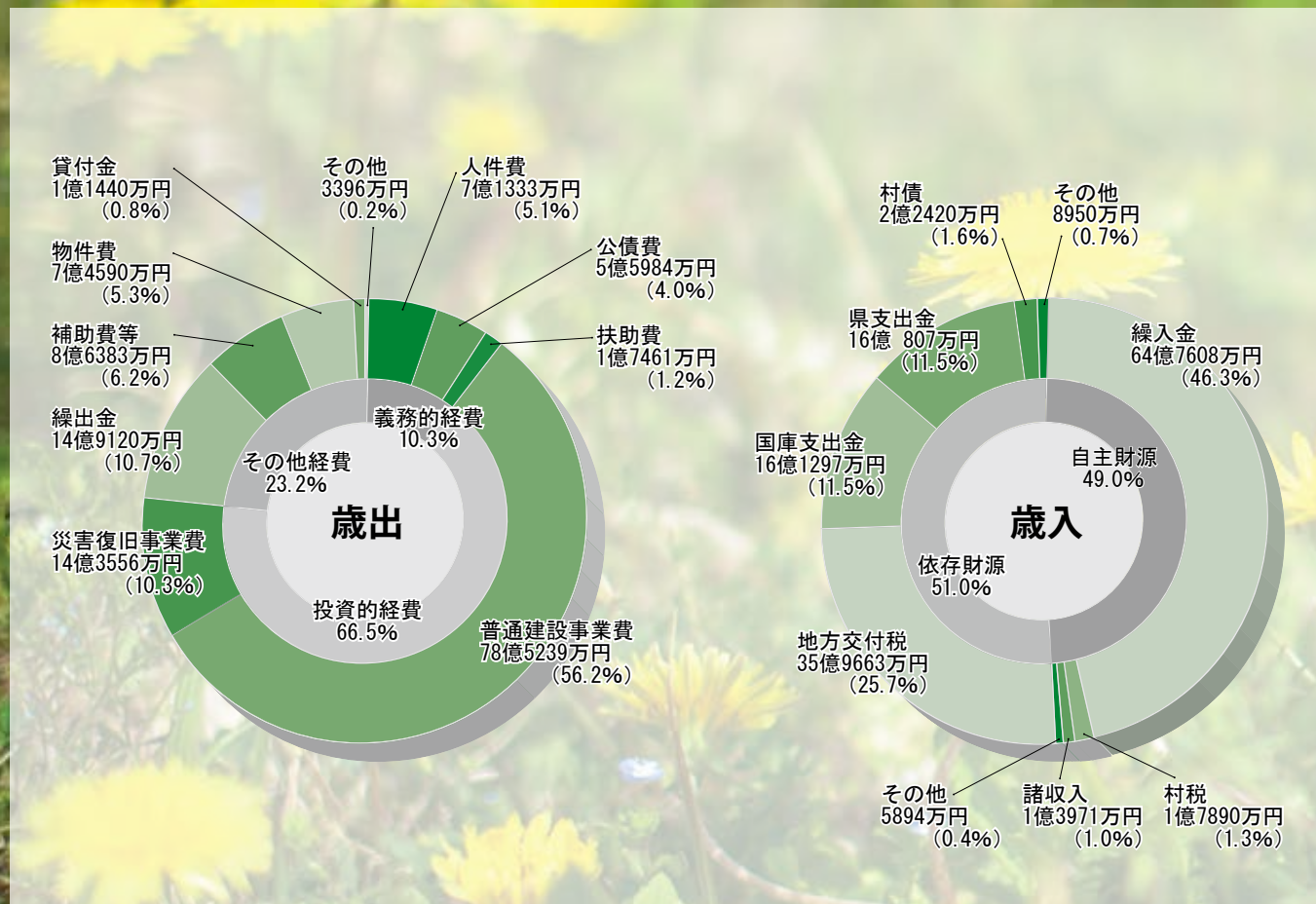
発災から3年が経過しましたが、今なお117世帯、約330人の方々が応急仮設住宅などでの不自由な生活を余儀なくされています。これらの方々が災害公営住宅への入居や自力での住宅再建によって、それぞれの移転団地などに1日でも早い時期に落ち着くことができるよう、その条件整備に努めます。

新年度を「新生たのはた」づくりに向けた基礎づくりの年度とするための一環として、「田野畑村政策提言諮問会議」設置のための所要の規則整備を行いました。この諮問会議の設置・運用を通じて、行政の政策決定に関わる村民の参画機会を確保し、村民主体の村づくりを展開していく考えです。

今後とも、村民の皆様の声に耳を傾け、皆様が未来に夢を抱き、希望を持ち続け、住み続けたい・住みたい村となるよう、全力で村政運営にあたる所存です。

村民の皆様ならびに議員各位の村政運営に対する、なお一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。平成26年度の村政運営にあたる所信の表明とします。

■平成26年度一般会計予算歳入歳出の状況



■平成26年度の予算規模（全会計）※端数処理の関係で数値に若干の差があります

【単位：万円】

区分	26年度	25年度	増減	伸び率	
一般会計	139億8500	207億4000	-67億5500	-32.6%	
特別会計	国民健康保険会計				
	事業勘定	6億1223	5億5184	6039	10.9%
	直診勘定	1億4982	1億4441	540	3.7%
	簡易水道会計	12億6156	11億8307	7849	6.6%
	集落排水会計	5億1549	6億9481	-1億7932	-25.8%
	下水道会計	4246	3839	408	10.6%
	介護保険会計				
	事業勘定	5億718	4億7053	3665	7.8%
	サービス勘定	279	279	0	0.0%
	後期高齢者医療会計	3222	3069	154	5.0%
小計	31億2375	31億1652	723	0.2%	
合計	171億875	238億5652	-67億4777	-28.3%	



「元気に帰ってきてね」と言葉を掛けながらサケの稚魚を放流

4年後の再会誓いサケを放流

教育振興運動羅賀地区実践協議会（中村房永会長）が3月1日、明戸川でサケの稚魚放流体験を行いました。震災後初めてとなる体験には、羅賀地区の小中学生や園児、父母など約50人が参加。昨年7月に完成した村サケふ化場で育てた稚魚約5万匹を小さなバケツを使って優しく川に放ちました。ふ化場の橋場明彦場長は「このサケは4年後、明戸川の匂いを頼りに帰ってくる。川や海が汚れないよう一緒に守ろう」と子どもたちに環境の大切さを訴えていました。

訓練で避難場所と心構え確認

3月9日、村津波避難訓練を行いました。沿岸北部で震度5強を観測する地震が発生し、大津波警報が発表されたという想定。午前9時すぎ、防災行政無線で避難指示が流れると、皆さんが避難場所に急ぎました。島越の立神神社では、消防団員と女性消防協力隊の誘導で約25人が避難。熊谷和香ちゃん(小2)は「今日はお母さんとおばあちゃんと一緒に避難。地震は来ない方がよいけど、もし1人のときに地震が来てもちゃんと避難します」と誓っていました。



避難指示を聞き、避難場所へと急ぐ島越地区の皆さん



⑧保育士たちは涙と熱い抱擁で卒園児たちを見送り



⑦「お母さん、いつもありがとう」



⑨大芦校長を真っすぐ見つめる



⑥これまでの感謝を込めて「旅立ちの日に」を合唱

巣立ちの春

厳しい冬が過ぎ、今年もやってきた巣立ちの季節、3月。村内でも数々の思い出を胸に、村の子どもたちが新たなステージに旅立ちました。

写真

- ①②…田野畑中学校（12日・卒業生44人）
- ③④…たのはた児童館（15日・卒園児18人）
- ⑤⑥…田野畑小学校（20日・卒業生41人）
- ⑦⑧…若桐保育園（22日・卒園児10人）



①あふれる涙をこらえながら「時を越えて」を合唱



④卒園証書を両親に手渡し



③卒園児が「楽しかった思い出」「小学校で頑張りたいこと」を呼び掛け



②在校生の歌声で涙の退場

お知らせ

募 シルバーで会員を募集中

- ◆就業内容…道路側溝の泥上げ、ガードレール清掃、草刈りなど
- ◆募集人数…30人
- ◆就業内容…教育施設などの環境整備
- ◆募集人数…3人
- ◆就業内容…観光施設・遊歩道の草刈りなど
- ◆募集人数…4人
- ◆配分金…当センターの規定
- ◆就業期間…4月～12月
※就業内容により異なります
- ◆応募方法…電話で申し込んでください
- ◆応募期限…4月25日(金)
- ◆応募・問い合わせ先…村シルバー人材センター (☎33-2816)

募 郵便局で契約社員を募集

- ◆募集職種・人数…郵便物の配達、営業(田野畑村内)・1人
- ◆必要資格…自動二輪運転免許か普通自動車運転免許
- ◆給与…時給770円～
- ◆勤務日…シフト制による週5日程度
- ◆勤務時間…午前8時30分から午後5時15分のうち4時間
- ◆待遇…各種社会保険、昇給制度、有給休暇制度、賞与年2回、交通費支給、正社員への登用制度有り
- ◆応募方法…電話で申し込んでください
- ◆応募・問い合わせ先…日本郵便(株)岩泉郵便局 (☎22-3145 担当：立花、大石)

知 固定資産課税台帳を縦覧

- 固定資産税の課税の基になっている「固定資産税課税(補充)台帳」を縦覧します。土地売買や家屋を取り壊した場合、台帳の内容が訂正されていないと、誤って課税してしまうことがあります。忘れずに確認をお願いします。
- ◆期間…4月1日(火)～30日(水) (土日祝日を除く)
 - ◆時間…午前9時～午後5時
 - ◆場所…役場税務会計課
 - ◆問い合わせ先…税務会計課 (☎34-2112)

4月になり、新小学1年生のバス通学が始まります。バス停付近を車で走行するときなど、子どもの動きに十分気を付けて走行をお願いします。
◆バスに関する問い合わせ先…政策推進課(☎34-2111)

知 日本脳炎予防接種が無料

- 日本脳炎の定期予防接種を受ける機会を逃した人(平成7年4月2日から19年4月1日までに生まれた人)は、予防接種を無料で受けることができます。希望する人は予約してください。
- ◆対象者…接種日現在、20歳未満
 - ◆接種日時…毎週火曜日(祝日除く)の午後4時～4時30分
 - ◆予約…希望日の1週間前までに診療所(☎33-3101)に予約
 - ◆問い合わせ先…保健福祉課 (☎33-3102)

知 大雪のハウス被害は連絡を

- 今年の大雪で被害を受けたハウスなどの復旧経費への助成が、国で検討されています。村は助成が決定した場合に備え、その後の申請などをスムーズに進めるため被害状況を確認しています。被害を受けたハウスなどがある人は、担当課まで連絡してください。
- ◆連絡・問い合わせ先…産業振興課 (☎34-2111)

知 し尿くみ取り料金を改定

- 消費税増税に伴い、し尿くみ取り料を次のとおり改定しました。
- ◆改定内容…現行料に消費税増税分を加算
 - ①180ℓまで
従1,128円→**従1,161円**
 - ②180ℓを超える場合、18ℓまたは端数ごとに加算
従112円80銭→**従116円10銭**
 - ◆問い合わせ先…宮古地区広域行政組合 (☎0193-64-2011)、生活環境課 (☎34-2114)

知 国民年金は前納がお得

- 国民年金保険料は、1年分や一定期間分を前もって納めると割り引きされ、とてもお得です。納付案内書は4月上旬に届きます。前納用の納付書も同封されていますので、利用してください。平成26年4月分から、保険料の月額が15,250円に変更になりますので注意してください。
- ◆前納期限…4月30日(水)
 - ◆問い合わせ先…宮古年金事務所 (☎0193-62-1963)

募 参加者などを募集中

知 いろいろなお知らせ

知 年金の免除申請期間拡大

- 国民年金保険料は、所得が少ないときや失業などにより保険料の納付が困難な場合、免除を申請することができます。この申請期間が4月から拡大されました。申請が遅れると、万一のときに障害年金などを受け取れない場合がありますので、早めに手続きをしてください。
- ◆申請できる期間…申請時点の過去2年1カ月分まで(今月申請すると24年3月分までさかのぼることができます。学生納付特例も同じです)
※これまでは申請時点直前の7月、学生納付特例は4月
 - ◆審査…前年所得などで審査。承認されない場合もあります
 - ◆その他…必要書類、申請方法などは問い合わせてください
 - ◆申請・問い合わせ先…生活環境課 (☎34-2114 内線23)、宮古年金事務所 (☎0193-62-1963)

募 歯のテレホン相談を受付

- 4月18日は「ヨイ歯の日」。歯や口に関する悩みにお答えする無料電話相談「ヨイ歯デーテレホン相談」を実施します。
- ◆日時…4月18日(金)
午前10時～午後7時
 - ◆受付内容…歯、口に関する悩みについて
 - ◆回答方法…相談を受け付けた後、午後7時以降に歯科医師から相談者に電話で回答
 - ◆相談料…無料
 - ◆相談電話番号…県保険医協会ヨイ歯デーテレホン相談係 (☎019-651-7341)

人口と世帯		火災	
3月1日現在()は前月比		(2月21日～3月20日)	
人口	3,733人(-4)	火災の【今月】	0件
男	1,848人(±0)	発件数【今年】	0件
女	1,885人(-4)	無火災の連続記録	(3月20日現在) 375日
世帯	1,433世帯(+1)		

知 予防接種を無料で実施中

- おたふくかぜ・水痘**
- ◆対象…満1歳以上就学前までの未接種・未罹患者
 - ◆接種日時…毎週火曜日(祝日除く)の午後4時～4時30分
- 高齢者用肺炎球菌**
- ◆対象…満65歳以上の慢性疾患患者で、過去5年以内に予防接種を受けていない人
 - ◆接種日時…月～金曜日(ただし水曜日午後と土日祝日除く)の午前9時～11時30分、午後2時30分～4時
- 共通事項**
- ◆予約…希望日の1週間前までに診療所(☎33-3101)に予約
 - ◆その他…無料は1人1回
 - ◆問い合わせ先…保健福祉課 (☎33-3102)

募 岩手県に就職しませんか

- (財)ふるさといわて定住財団では、県内就職を希望する人を対象に就職面接会を開催します。
- ◆日時…4月19日(土)
午後1時～4時30分
 - ◆場所…岩手産業文化センターアピオ(滝沢市砂込389-20)
 - ◆対象…平成27年3月卒業予定の大学院、大学、短大、高専、専門・専修学生、既卒者、一般求職者
 - ◆参加企業…県内に就業場所があり、正社員・正職員の求人を持つ企業 約130社
 - ◆内容…参加企業との面談、各種就職相談など
 - ◆問い合わせ先…(財)ふるさといわて定住財団 (☎019-653-8976)

70歳から74歳までの医療費 窓口負担割合が変わります

国民健康保険加入者の70歳から74歳までの医療費窓口負担は、これまで特例で1割負担となっていました。本年度、この特例措置の見直しが行われます。4月2日以降に70歳の誕生日を迎える人から、窓口負担が2割に変更。70歳になった誕生月の翌月(1日が誕生日の人はその月)の受診から対象になります。

5月1日が誕生日→5月から
5月2日が誕生日→6月から

対象者には事前に、負担割合を記入した「高齢受給者証」を郵送します。受診するときは、医療機関の窓口で保険証と併せて提示してください。

対象者のうちでも、現役並み所得者の負担割合はこれまでどおり3割です。その他、毎月の負担限度額などもあります。詳しくは、問い合わせてください。

- ◆問い合わせ先…生活環境課 (☎34-2114)

人事異動

村職員、広域消防職員、学校教職員
の人事異動をお知らせします。

村職員

◆総務課

課長 佐々木靖、主幹 島山哲、
佐々木修、総務・財政班主任主査
大森泉、同技師 工藤聖也

◆政策推進課

課長 鎌形金由、主幹 工藤光幸、
山本章博（岩手県から派遣）、政策推
進班主任 大澤健

◆復興対策課

復興対策班主任主査 佐藤智佳、同
主任 前川恵美

◆税務会計課

会計管理者兼課長 早野円、税務・
会計班主任主査 菊地正次

◆生活環境課

課長兼保健福祉課長兼診療所事務局長兼
歯科診療所事務局長 佐藤俊一、生活
環境・国保介護班主任主査 佐々木
和也、同主査 横田千穂子、同主
事 中野千鶴

◆建設第一課

課長兼用地対策室長 島山恵太、道
路・上下水道班主任 坂本大、工藤
光昭、角館尚

◆建設第二課

課長 大澤喜男、漁港・住宅班主任
横山順一

◆産業振興課

課長 佐々木卓男、産業振興・水産
振興班主査 平坂聡、同主任 川畑
勝也、金子和也

◆保健福祉課

主幹 大上高広、保健福祉・包括支
援センター班主任 晴山美恵子、同
看護師 合角地美加、同主事兼診療
所管理班主事兼歯科診療所管理班主事
島山裕晃

◆教育委員会事務局

教育次長兼学校給食センター所長 島
山淳一

◆議会事務局

事務局局長兼選挙管理委員会事務局局長兼監
査委員事務局局長兼農業委員会事務局局長
奥地弘武

◆農業委員会事務局

主幹兼議会事務局主幹兼選挙管理委員
会事務局主幹兼監査委員事務局主幹
熊谷吉秀



お世話になりました

◆退職者

参事兼総務課長 穂高正実、政策推
進課長 堀川孝男、農業委員会事務
局長 熊谷和廣、会計管理者兼税務
会計課長 下机美枝子、保健福祉課
主任主査 久保朋子、保健福祉課主
任兼養士 佐々木貞子、診療所主査
牧原美津子、保健福祉課保健師
三田地千穂

◆新採用

税務会計課税務・会計班主事 藤森
大輝、生活環境課生活環境・国保介護
班主事 山崎芳美、保健福祉課保健
福祉・包括支援センター班保健師 酒
井志織

◆新採用（任期付き）

復興対策課復興対策班主事 熊谷航
大、建設第一課道路・上下水道班主任
主査 笹原敬悦、同主査 三浦悟
建設第二課漁港・住宅班主任 清川
末広

広域消防

異動転出者
カッコ内は異動先
分署長 中村豊（退職）
消防第二係長 伊藤伸一（退職）
消防主任 伊藤法城（山田消防署）
消防副士長 舩越智（新里分署）
消防士 金澤光（岩泉消防署）
消防士 田代寛八（宮古消防署）

教職員

異動転出者
カッコ内は異動先

◆田野畑小

教諭 鎌形江美子（岩泉町立小本小・
教諭）

講師 在原彩（奥州市立水沢小・教諭・
新採用）

講師 太野明日花（岩泉町立釜津田
中・講師）

すこやかサポート 出羽成美（宮古
市立刈屋小・すこやかサポート）

◆田野畑中

教諭 大久保士郎（盛岡市立渋民中・
副校長）

講師 佐藤香苗（退職）

特別支援教育支援員 佐々木健太
（県立西和賀高・講師）

「田野畑むらづくり基金」への寄付状況

3217万4,370円（3月20日現在）

531件（村内108件、県内147件、県外276件）

「田野畑むらづくり基金」の申し込み・問い合わせは、村ホームページ
をご覧ください。総務課（☎34-2111）までご連絡ください。

役立ちカレンダー

期間：4月2日(水)～30日(水)

月日	行事	場所	時間	問い合わせ先
4月2日(水)	アズビ健康スポーツ教室「バドミントン教室」	アズビ体育館(毎週水曜日)	20:00～21:00	教育委員会
4日(金)	アズビ健康スポーツ教室「フットサル教室」	アズビ体育館(毎週金曜日)	19:00～21:00	教育委員会
5日(土)	若桐保育園入園式	若桐保育園	9:00～9:30	若桐保育園(☎37-3577)
	田野畑中入学式	中学校体育館	9:30～11:00	田野畑中(☎34-2301)
7日(月)	アズビ健康スポーツ教室「卓球・ソフトバレー教室」	アズビ体育館(毎週月曜日)	19:30～21:00	教育委員会
8日(火)	田野畑小入学式	小学校体育館	10:00～11:00	田野畑小(☎34-2050)
11日(金)	たのはた児童館入園式	たのはた児童館	10:00～10:30	たのはた児童館(☎34-2331)
16日(水)	幼児健診	健診センター	13:00～15:30	保健福祉課
17日(木)	あすからのくらし相談会	保健センター	13:00～15:00	保健福祉課
19日(土)	診療所休診			診療所
20日(日)	春の一斉清掃	各地区	6:00～8:00	生活環境課
30日(水)	固定資産税1期、軽自動車税納期限			税務会計課

役場☎34-2111 / 教育委員会☎34-2226 / 医科診療所☎33-3101 / 歯科診療所☎33-3100 / 保健福祉課☎33-3102

はまなす号巡回カレンダー

期間：4月16日(水)～17日(木)

◆はまぎくコース（机・北山方面）

月日	場所	時間
4月16日(水)	グループホームつくえ付近	9:40～10:00
	北山地区総合センター	10:10～10:25

◆たんぼぼコース（真木沢・切牛方面）

月日	場所	時間
4月16日(水)	佐藤進氏宅付近	11:05～11:20
	望洋館	11:30～11:45

◆おきなぐさコース（沼袋・甲地方面）

月日	場所	時間
4月17日(木)	産直プラザ尾肝要	9:45～10:00
	山栄会リアス倶楽部付近	10:10～10:40
	甲地公民館	10:50～11:05



はまなす 掲示板

◆問い合わせ先…教育委員会（☎34-2226）

広報クイズ

問題の答えをはがきを書いて、役場政策推進課（4月21日まで）にお送りください。正解者の中から抽選で5名様にプレゼントが当たります。

Q1 3月2日に開通した三陸沿岸道路「尾肝要道路」。その一部「尾肝要トンネル」の長さは何メートル？

- A) 4.5キロメートル
- B) 2,736メートル

Q2 村の平成26年度当初予算。一般会計の予算額は？

- A) 171億875万円
- B) 139億8500万円

■前号(3月号)の正解 Q1→B、Q2→A

■当選者(敬称略)

中村チト(甲地)、熊谷キヨ(沼袋)、上山明美(田野畑)、熊谷正初(田野畑)、鎌形タヨ(田野畑)

おめでとう おくやみ

〔平成26年2月届け出分〕(敬称略)

■安らかに ～お悔やみ～
熊谷サノ(89) 甲地
根木地善一(95) 菅窪

※この欄に掲載してほしくない人は、届け出のとき、戸籍係の窓口にお申し出てください



★仕事は？

田野畑スポーツクラブのクラブマネージャーです。スポーツ教室の企画・運営などが主な仕事。今は、卓球、ソフトバレー、バドミントン、フットサルの各教室をアズビィ体育館で開催しています。

★今、頑張っていることは？

昔やっていたエレキギターの熱が再燃。ロッククライミングにも挑戦してみたいですね。

★趣味は？

映画鑑賞です。最近のお勧め映画は「おにいちゃんのハナビ」。これは泣けます。ぜひご覧ください。

★理想の女性のタイプは？

趣味が合う人で、一緒にスポーツもできる人。

★最後に一言お願いします！

スポーツ教室にぜひご参加を！ 教室でやっているスポーツ以外でも、興味があるものがあったら気軽に声を掛けてもらえればうれしいです。



とある
高山 徹さん(27)＝田野畑＝

わが家の
アイドル

おうすけ
菊地 桜輔くん(1歳5カ月)
大さん・香雅里さん＝沼袋＝

お母さんからのひとこと

卵焼きとシチューが大好き。除雪車や生コン車にも夢中です。お兄ちゃんにいじめられても「倍返しだ!」とばかりにやり返す、結構きかん坊。強くて優しい子に育ててね。

編集ごぼれ話

この欄を書くのもこれで最後。担当卒業の日が来てしまいました。さまざまな節目にカメラを手に立ち会った6年間。小学校閉校・統合、児童館統合、若桐寮閉寮、中学校新築、田野畑校閉校、東日本大震災、そして復興の歩み。中野バイパスや尾肝要道路、下閉伊グリーンロードも開通。マイマイガやエチゼンクラゲが大発生。スボ少野球を追っかけて札幌まで強行したこともあったなあ。6年間の取材先全てで、皆さんからご協力と温かい励ましをいただきました。本当にありがとうございます。今月はもう「ためだ」と思っても必ず助けてくれる人が現れ、なんとか発行できた7冊の広報。6年間での出会いと経験は忘れることのできない宝物です。▼伝えたいこと、伝えなければならぬこととはもっとたくさんあったでしょう。でも自分なりに頑張れたと思うので、大目に見てください。▼次の担当は大澤主任。どうか村のみなさん、これまでどおり、これまで以上に、取材へのご協力と励ましで支えてあげてください。(政策推進課 佐々木和也)